

三重の 生きもの大より

第 2 0 号



志摩半島野生動物研究会が 1988 年から調査に取り組んできた生きものが、このアカウミガメだ。三重県では毎年 5 月下旬から 8 月中旬にかけ、伊勢湾や熊野灘の砂浜に産卵のためやってくる。砂浜にのっしのっしと上陸してくる雌ガメは、甲羅の長さが 80 センチ前後、体重は 100Kg を越えるものさえある。実に堂々とした風格だ。アカウミガメの産卵場は、北太平洋では日本列島にしか見つかっていない。彼らが今後も子孫を残せるかどうかは、日本の海岸がいかに昔のまま、自然のままに守られるかにかかっているのである。本号でも短報としてとりあげたが、昨年 10 月には伊勢湾奥部の高松海岸でアカウミガメの産卵が確認された。三重県では最北端の産卵場である。しかし、この海岸のすぐそばに道路の建設が計画されている。また一つ、貴重な産卵場が消えてしまうのかもしれない。

I.W.